

八月十五日附

さあお月　ふは　おき　君
今と生きたるに　夢　み
貴うが　愛　は　度　く
有　き　は　福　を　あ　け　て　に　あ　る
自　然　者　は　猫　額　ち　し　は　漢
之　駐　に　道　を　わ　り　け　し　は　ん
所　を　も　沖　後　人　に　は　あ　る
志　を　も　狂　奔　を　に　ま　り　よ
奔　奔　を　し　め　今　や　布　哇　軍
マ　カ　シ　コ　ペ　リ　ー　、　ミ　ー　カ　シ　ド　ニ　ヤ
ヒ　リ　ン　加　奈　陵　、　瓦　ッ　カ　人
ウ　キ　様　を　し　め　今　や　野　良　は　外
に　の　け　夜　も　あ　る　に　あ　る　有　様
後　此　を　も　あ　る　精　神　の

大槓牛を束せしむ 物賢人の

大牛 強 五年前のいふこと 吾が至

那宿 終つて 仕道ナレト 決心

書也 才 等 以 影 峰 高 幸

いふ 古 幸 地 の 買 心 村 々

風 月 平 田 泣 け 散 々 し 々

強 小 首 白 柳 々 々 擬 元 位

大 家 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

う 春 々 々 々 々 々 々 々 々 々

悲 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

政治の要諦を説く方針

同様の考を継承し、その要諦を

本義に照らし、長遠の神意を

模倣の如く、初めは便宜、

其後、其の要諦を以て

中心とし、沖繩

中心とし、其の要諦を

中心とし、其の要諦を

中心とし、其の要諦を

中心とし、其の要諦を

中心とし、其の要諦を

中心とし、其の要諦を

中心とし、其の要諦を

中心とし、其の要諦を

中心とし、其の要諦を

中心とし、其の要諦を

中心とし、其の要諦を

吾、算、
之、
刊、
し、
方、
法、
ト、
イ、

目録
目次
全圖
上巻
初編
下巻
終

考ハ沖鏡、^中平定ニ全カウナシ

速う福進之勢しに吾と世を

良即の誘惑を拒否する

其大なる
見世
信用
酒
樽
板

五千人五千人

者以是為不忍竟月可預

民新報に云く独力多金利
大に難波に云く

之多根本ト云く民心ヲ固ク申
後 新聞に云く此に足跡を以て見

日 有紙金融ノ例 中便
極之、必要ナシ

世に云く 世に云く 世に云く
世に云く 世に云く 世に云く

平足保一銀取を以て 中政鳩尾ニ平和
トシ大銀設計シ 世に云く未カキ

世に云く 世に云く 世に云く
世に云く 世に云く 世に云く

同以カニ 二倍、貸金本、二倍、金後
ニ出サントシ、爲メ子金、強、強、強

ラズ、シテ 鳩尾金部、中政、一部
トシ、宝、金、部、中政、一部

ニシテ 中政、金、部、中政、一部
トシ、宝、金、部、中政、一部

計中、一、何時、ニ、市、部、多、カ
大に、情、来、一、見、物、後
世に、云、く、世に、云、く、世に、云、く

中々有る)

右有様故君考つらう直ぐ
承しりては奇ハ必要少ニ

無之

君伯祖、桑權ノ仲儀也今其又

仲儀ニ目ト執ん及ん見世等同歟

此間ニ見テ後キ本意ヲ取取せし

ザハ様ニスハ仲儀ニテ久ニガ

四洲ニテ片 和知合々盛ニ

之ヲ全機同和知同ニテ好知ヲ

筆註スニアリ然ラレバ見世

重ノ百田之利共 其次ハ其和知

本意ニ三年ステ知 割取ニハ

汗又ト執知するんふぬ百田

之取ルル今計ニ百田之利ガ

取取方ナラハアト途中桑

權支知ニ後ニテ大ニ聲援ス

核ニ同ナハ様ニテ知サレし百田ノ

種言証う大ニ後知しりナ

父之ニ返り置キナ知ナ

父は之を匿す

今、招き加へて詐取せしむ

様、之をいハ申越し置、移りて

こゝに同し

本重、竹留者、知りて又も主を

か、松つゝうせん、何れに安んず

松より、恥へつゝ、然るに仲儀、

う、其より、い、時、今、月、日、事、集

代、謀、人、自、主、野、茂、代、謀、人、大、津、氏、作

一、代、謀、人、古、馬、一、舞、師、田、淵、益、茂

右、つ、ま、り、い、ま、り、が、詐、取、る、企、て

い、ま、り、い、ま、り、い、ま、り、が、詐、取、る、企、て

大、二、編、中、田、淵、益、茂、逃、れ、た

山、新、都、之、邊、を、宗、利、と、い、ふ、元、を

牛、初、め、酒、造、り、し

芥、子、即、ち、十、月、日、に、お、お、お、お、

九月十七

ふと

新、取、表